



## 平成25年 野球殿堂入り表彰式

館長 廣瀬 信一

7月20日(土)に野球殿堂入りの表彰式を、神宮球場で行われたオールスター第2戦の試合開始前に行いました。今回、競技者表彰委員会選出で殿堂入りされた大野 豊さんと外木場 義郎さんは、共に広島東洋カープ一筋でご活躍されましたので、第1戦の札幌ドームではなく、馴染み深い神宮球場での開催となりました。

プレーヤー表彰の大野さんは、軟式野球の出雲信用組合から昭和52(1977)年にドラフト外で入団されました。先発、リリーフとして活躍され、昭和63(1988)年に最優秀防御率のタイトルを獲得し、沢村賞に選ばれました。平成3(1991)年に最優秀救援投手、平成9(1997)年には2度目の最優秀防御率のタイトルを獲得。実働22年間で広島3度の日本一と5度のリーグ優勝に貢献されました。

エキスパート表彰の外木場さんは昭和39(1964)年に入団されました。翌年の昭和40(1965)年にプロ初勝利をノーヒットノーランで飾る偉業を達成しました。昭和43(1968)年には完全試合、昭和47(1972)年にもノーヒットノーランを達成。完全試合1回を含む3回の達成はプロ野球史上初で現在も破られていない大記録です。昭和50(1975)年には最多勝、最多奪三振のタイトルを獲得し、沢村賞にも選ばれ、広島球団創立以来初のリーグ優勝に貢献されました。

両軍の選手・監督・コーチがベンチ前に整列し、場内アナウンスで大野 豊さん、外木場 義郎さんがスクリーン映像の紹介とともにグラウンドに登場されました。はじめに、(公財)野球殿堂博物館・加藤 良三理事長よりお二人に記念のレプリカが贈られました。次に、1月の殿堂入り記者発表でゲストスピーチをお願いした元広島監督の山本 浩二さんから大野さんへ、古葉 竹識さんから外木場さんへ花束が贈呈されました。記念撮影に続き、お二人からのご挨拶となりました。大野さんは、ご自身のプロデビュー戦にふれ「1/3回で5失点、防御率135.00という、とんでもない数字からスタートした私が殿堂入りするとは夢にも思っていなかった。」「人に認めてもらおうと、あきらめない気持ちでやった」と思い出を振り返られました。外木場さんは「初優勝は忘れることができない。この記録は仲間とつくったもの。みんな、ありがとう」と感謝の言葉を述べられました。お二人に対し、満員の球場から暖かい祝福の拍手が送られ、無事に表彰式を終えることができました。

なお、特別表彰委員会選出の福嶋 一雄さんの野球殿堂入り表彰式は、8月15日(木)に甲子園球場で行う予定です。



左から 山本 浩二氏、大野 豊氏、加藤 良三理事長、外木場 義郎氏、古葉 竹識氏

## 《 夏休みイベント情報! 》

### 1 「野球で自由研究!」

期間 / ~9月1日(日) 会場 / 野球殿堂博物館 図書室ほか

野球には、歴史や用語、野球用具、野球場など小・中学生の自由研究のテーマになるものがたくさんあります。当館では今年も夏休みに自由研究のサポートをする「野球で自由研究!」を開催します。

また、当館スタッフによる「ミニミニ実験コーナー」を今年も行います。

#### 《ミニミニ実験コーナー》

期間 / ~9月1日(日) (8月12、13、14日を除く毎日)

時間 / 14:00、15:00 一日2回開催 場所 / 殿堂ホール

風船を使った変化球の実験などが好評だった「ミニミニ実験コーナー」を今年も行います!  
アドレス: <http://www.baseball-museum.or.jp/jiyu-kenkyu/> も見て下さいね!



「野球で自由研究!」



「ミニミニ実験コーナー」

### 2 「バット製作実演」

期間 / 8月13日(火)、14日(水)

11:00~12:00、13:30~14:30、15:00~16:00予定

会場 / 野球殿堂博物館 野球殿堂ホール 協力 / ミズノ株式会社

今年もバット削りの実演を開催します!

ミズノ株式会社のご協力により、クラフトマンによるバット製作の実演に加え、バットにまつわるいろいろな質問にもお答えします。自由研究の題材におすすめのイベントです。



過去の開催時の様子

### 特別展 平成25年 野球殿堂入り特別展

会期 / ~9月23日(月) 会場 / 野球殿堂博物館 野球殿堂ホール

大野氏、外木場氏、福嶋氏の野球殿堂入りを記念して、「平成25年 野球殿堂入り特別展」を開催します。3氏ゆかりの資料や写真を展示し、経歴や記録などをご紹介します。

なお、福嶋氏のレリーフは8月15日の表彰式以降の展示となります。



平成25年 野球殿堂入り特別展

### 2013年度の維持会員を募集中!

「公益財団法人 野球殿堂博物館」(旧・財団法人 野球体育博物館)は、昭和34(1959)年に野球専門の博物館として開館して以来、野球や体育に関する資料を収集・保管・公開してきました。バット等の実物・写真資料は約3万点、図書・雑誌は約5万冊を収蔵しており、展示や閲覧という形で多くの方々にご利用いただいております。

また、年1回競技者表彰委員会と特別表彰委員会にて野球界の功労者を選出し、「野球殿堂入り」として表彰しています。

維持会員とは、このような博物館の事業にご賛同いただいた方々に、維持会費をお願いし、博物館の運営をご支援いただくものです。

#### 1. 会員の特典

- (1)当博物館発行「ニュースレター」(季刊)を送付します。
  - (2)無料で博物館に入館できる優待証を発行します。
  - (3)アメリカの野球博物館(クーパースタウンにある)にも無料で入館できます。
  - (4)会員以外の方でも利用できる博物館招待券を差し上げます。
  - (5)イベント情報などを優先的にご案内します。
  - (6)博物館で販売している商品が10%引きになります。
- \*新個人会員には上記の特典のほか、「野球殿堂 2012」を呈呈します。(ジュニア会員を除く)
- \*新ジュニア会員には上記の特典のほか、「野球殿堂博物館 オリジナルピンバッジ」を差し上げます。



#### 2. 会員の種類と会費

年会費(4月~翌年3月迄)

法人会員	1口 100,000円
------	-------------

個人会員	1口 10,000円
ジュニア会員(小・中学生)	2,000円

\*ご入会月により、個人会員の初年度年会費が割引になります。

ご入会月	4月~9月	10月~12月	1月~3月
維持会費(個人会員)	10,000円	5,000円	2,000円

#### 3. ご入会の方法

①館内にあります「維持会員募集のご案内」の“入会申込書”に、必要事項をご記入のうえ、係りにお渡しいただくかお送りください。

「維持会員募集のご案内」は郵送もいたしますので、ご希望の方は博物館までご連絡ください。

②“入会申込書”が届きしだい“維持会費のご請求書”をお送りしますので、維持会費をお振込みください。  
お問い合わせ 博物館 業務部 (TEL 03-3811-3600)

皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。



## 殿堂入りの人々を語る (40)

### 夫・皆川 睦雄の思い出

皆川 真智子 (皆川 睦雄氏 夫人)



2011年野球殿堂入り  
皆川 睦雄氏レリーフ

小学校4年生の昭和20(1945)年・終戦、物資不足に加え、初冬から春先まで1メートル以上の雪に埋もれたまま、冬を過ごす東北の町で、近所のお兄ちゃん達が布を硬く丸めて作ったボールで野球をしている仲間に入れて貰い、初めて握ったのが野球との出逢い、ボールとの出逢いでした。

高校の野球部では、冬の間、雪の上を走るばかりの練習でしたが、生涯の良き師、良き友に恵まれました。卒業後は南海ホークスに入団し、はじめの2年間は二軍生活で、一緒に一軍に上がった野村 克也さんと共に励み、そして221勝の殆んどをリードしていただき、また名将・鶴岡 一人監督と当時百万ドルの内野陣と

言われたバックに助けられての現役時代…。現役引退後は、野球解説者として大阪朝日放送など。その間阪神タイガース(吉田 義男監督)、読売ジャイアンツ(王 貞治監督)、近鉄バファローズ(仰木 彬監督)にてピッチング・コーチとして務めさせていただきました。

家庭での主人は、2人の子供には、現役時代、遠征等で学校の運動会、学芸会などに参加できないこともありましたが、4人の孫にはとても嬉しそうに、出来る限り参加して、満足していました。

家の中のことは、いっさい何もしていませんでしたが、年末のお餅つきには大活躍。新年を迎える床の間の飾りには、お鏡餅を三宝に並べて、もう一つの三宝には白い半紙の上に、グラブと真っ白なボールに水引をつけて「よしっ!!」と、心を新たにしていました。

野球のこと以外、何も考えていない様子で日々を送っている様でしたが、それはとても幸せそうでした。

晩年、体調を崩しての入院生活でも、穏やかな日々を送り、ベッドの上でも右手に柔らかいビニールのボールを何時も手にしていました。容態がかなり悪くなった時も、主人は三本の指でボールをしっかり握り、手首のスナップを効かすようにして振りはじめ、病室に来ておられたお友達が、誰からともなく「南海ホークスの歌」を唄い出すと、ベッドに横たわっている主人の足の膝のところ、ふわっふわっと持ち上げられて、「大阪球場ネッ」と呼び掛けると嬉しそうに微笑んで、ゆっくりうなずき、そのまま静かに静かに目覚めぬ眠りにつきました。

布製のボールに始まり、本当の硬いプロ野球のボール、そして最後には柔らかい優しいボールを握って…。

野球を愛し、現役時代は南海ホークス一筋だった主人は、生前、大阪スタジアムから1キロ足らず離れた所にあるお寺に「ここならず〜っとナイターの明かりが見える…」と墓地を用意していました。でも、残念ながら主人が亡くなった時には、大阪スタジアムは現代的な商業ビルになってしまいました。しかし、お寺のある場所は、平安の昔から入り日を拝む大阪の景勝地、夕日ヶ丘と言う本当に夕景の素晴らしい位置に有り、ナイターの照明の様に明るい夜空…、ボールの様に丸い丸い夕日…。主人は無意識だったのでしょうが、きっと納得しているでしょう。

没後すぐに、米沢市民栄誉賞、山形県民栄誉賞を受賞、また米沢市民球場を皆川球場に。そして野球殿堂入りと、この栄誉は、主人が大好きだった故郷、故郷の方々、野球界での先輩・同輩、温かくそして熱くいつも励まし、応援していただいたファンの皆様と一緒にいただけたものと、主人は感謝している事と私は信じています。

「野球が出来るいい時代に生まれて幸せだった」と、いつも主人は言っていましたが、みんなが野球をしたり、野球を見て楽しむいい時代、平和な時が続きますように心よりお祈りします。



## こんにちは図書室です



### 大毎野球団と『野球の米国』



『野球の米国』大毎野球団 著  
大阪毎日新聞社、東京日日新聞社発行  
大正15年

今から88年前の大正14（1925）年3月に大毎野球団が米国遠征を行いました。『野球の米国』はこの遠征の様子をまとめたものです。大毎野球団は、大正9（1920）年3月に大阪毎日新聞社と東京日日新聞社の両社が名古屋で懇親会を開いたときに、全大毎を組織し、地元のチームと対戦したことがきっかけとなり、5月に結成されました。大正10（1921）年は慶應大学から小野 三千磨（1959年殿堂入り）、腰本 寿（1967年殿堂入り）ら、大正11（1922）年には明治大学から岡田 源三郎（1978年殿堂入り）らが入団し、名実共に日本のトップチームの一つでした。

大正14（1925）年3月の渡米メンバーは、

投手：小野 三千磨、新田 恭一

捕手：森 秀雄、井川 完

内野：腰本 寿、渡邊 大陸、桐原 眞二（1984年殿堂入り）、  
内海 寛、内海 深三郎

外野：高須 一雄、菅井 栄治、川越 朝太郎、二神 武  
の計13名でした。

この米国遠征の目的は、野球技術の向上の為だけではありませんでした。遠征の総監督でのちの毎日新聞社社長になった奥村 信太郎は序に“日本野球チームの米国遠征は（…中略…）野球技の修練及び研究から更に大きな意味で、日米親善のためにもかなり貢献したことはあるが、我社チームの渡米はその外に少し付け加えられたるものがあつた。それは大毎チームの選手はいずれも若い新聞記者の群であることである。（…中略…）大毎チームの米国遠征を以て単なる野球修行というよりも、寧ろ若い記者団の修学旅行という方に重きを置きたかつた。”と書いています。

目次をみると、大リーグ観戦記、米国大選手の印象合評記、大リーグの印象、ワールド・シリーズを見る、戦績を顧りみて、付録となっています。小野や桐原も観戦記を書いています。この遠征の翌年に慶應大学の監督となる腰本はセネタース対タイガースの試合を見て、“両チームを見て感じたのはタイ・カップ氏の如何にも負けまいとする態度であつて、彼は常に身体を動かしているか、口を働かせて敵に対しては、タイガースの各選手がこの大将を戴いているせいも皆元氣浚瀾としてしているのに対し、セネタース戦士はアメリカの上院議員のごとく紳士的であり、（…中略…）日本の学生チームのごとく黙々としてゲームをやっている。”と両チームを比べています。また、日本人選手とメジャーリーガーとを比較し“守備では或いはメジャーリーグ位に達する時が来るかもしれないが、打撃においてはとてもそんな望みは見受けられない。”と書いています。

大毎野球団は昭和4（1929）年に解散していますが、昭和23（1948）年に米国遠征メンバーで毎日新聞社に残り記者として活躍していたのは、小野 三千磨（東京運動部顧問）、森 秀雄（西部運動部顧問）、内海 寛（西部運動部副部長）、内海 深三郎（名古屋総局事業課長）、川越 朝太郎（鳥取支局長）の5名でした。

大正・昭和初期の日本球界のトップチームの選手兼記者が記した『野球の米国』は、図書室でご覧いただけます。

司書 茅根 拓

## もの 知ってほしいこんな資料 (82)

### 収蔵番号1番のクリケットボール

野球殿堂博物館には、約3万点の資料が保管されていますが、今回はその中から収蔵番号1番のクリケットボールと、当館の収蔵システムについてご紹介したいと思います。



収蔵番号1番のクリケットボール (原寸大)

資料を収集して保存し後世に伝えていくことは、博物館の重要な機能の一つです。野球殿堂博物館でも、1959年の開館以来、継続的に資料の収集が行われています。博物館に集められた資料は収蔵品と呼ばれ、一定の基準に従って管理されています。通常、収蔵品は登録簿に記載され、収蔵番号が付けられます。2013年3月末時点で収蔵番号は10743番まで登録されています。関連性の高い一組の資料には、同じ収蔵番号で接尾に枝番号が付けられます。例えばユニホームの上・下・帽子の場合は、同じ収蔵番号のあとに-1、-2、-3といった枝番号が付けられます。この枝番号を含めると、当館が所有する資料の総数は34778点にのぼります。開館当初は購入資料もあったようですが、現在では映像資料の製作などを除き、すべてが皆様のご厚意による寄贈資料です。そして、これらの収蔵品は永久的に当館で保存されます。

1959年の開館時には、多数の資料が一度に収集されましたが、その中で収蔵番号1番に選ばれたのがこのクリケットボールです。鈴木 惣太郎氏 (1968年殿堂入り) の寄贈で、円周は約23cm、直径約7.1cm、重さ約140グラム、表面は革で覆われ非常に硬く、刻印は不鮮明で判読できません。クリケットは、1744年にイギリスで最初の公式競技規則が作られ、ボールのサイズは円周9-9.25インチ (22.86-23.49センチ) と決められました。その後1927年に、円周8.8125-9インチ (22.38-22.86センチ) へと変更されました。このクリケットボールは、そのサイズや特徴から、おそらく1900年頃のものと考えられます。

野球のルーツには諸説あり、かつてはアメリカで考案されたという説やイギリスのクリケットが起源という説もありました。イギリスでは古くからバットとボールを使った遊びが庶民の間で親しまれていました。クリケットは16世紀頃から子供の遊びとしてはじまり、徐々に大人の間でも行われるスポーツへと変化し、前述のとおり1744年には公式競技規則が作られました。クリケットは野球と似ているようで、実際にはルール上の大きな違いがあります。例えば、クリケット場は楕円形で打者は360度いずれの方向に打っても構いません。また、クリケットは野球の様に塁を回るのではなく、2つのベースを往復することで得点します。一方、同じくイギリスのバットとボールを使った遊びの中で、2つのベースを往復するのではなく、より多くの塁を回るものがあり、これがラウンダーズという名前でも知られる遊びになったと言われています。現在ではこのラウンダーズやその前身の子供の遊びが、アメリカに渡り野球へと発展したと考えられています。

このことから、今から54年前の開館当時に資料の登録作業を行った私たちの先輩が、クリケットを野球と同じルーツを持ち、野球よりもはるかに古い類縁スポーツと考え、偶然ではなく意図的にこのクリケットボールに記念すべき収蔵番号1を付けたことが想像できます。

学芸員 篠塚 真理子



野球殿堂博物館 トピックス (2013年5～7月編)

**【5月17日】**

**「ライオンズ・クラシック 2013」記者発表開催**



野球殿堂ホールにて13時より記者発表が開催され、「東京セネターズ」の復刻ユニホームを着用した栗山 巧主将、秋山 翔吾選手が登場しました。

**【6月29日】**

**特別展「オマリー家と日本野球」開催！**

ロサンゼルス・ドジャースの元オーナー、ピーター・オマリー氏が来日し、特別展「オマリー家と日本野球」のオープニングセレモニーを開催しました。



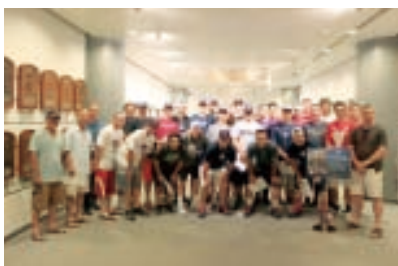
セレモニーでは、ピーター・オマリー氏、オマリー家とゆかりの深い早稲田大学元監督・石井 連藏氏、加藤理事長によるテープカットが行われました。

同展は6月29日から7月15日まで開催、オマリー家より借用した14点もの貴重な資料に加え、当博物館収蔵のジャッキー・ロビンソン選手使用バットやアイク生原氏関連資料など約30点を展示しました。

**【7月10日】日本製紙石巻野球部が来館！**

第84回都市対抗野球大会（7月12日～23日）に東北第一代表として3年ぶりに出場した日本製紙石巻野球部（宮城県石巻市）が来館しました。

館内の展示を見学後、青獅子旗の前で記念撮影を行いました。この東北第一代表の青獅子旗は、2010年東北大会で優勝した日本製紙石巻の応接室に飾られていましたが、翌年3月11日の震災による津波で建物ごと流され、同年7月に敷地内のがれき撤去作業中に奇跡的に発見されたものです。



**【7月12日】日米大学野球選手権米国代表が来館！**

第39回日米大学野球選手権大会に出場した大学米国代表チームが来館しました。殿堂ホールで記念撮影後、それぞれ館内の展示を見学しました。

**【7月19日】早大・高梨投手完全試合ウイニングボール寄贈！**

4月21日の東京六大学春季リーグ戦、早大対東大2回戦において同リーグ史上3人目の完全試合を達成した早大の高梨 雄平投手より、「完全試合ウイニングボール」をご寄贈いただきました。このウイニングボールはエントランスホールにて展示中です。



## 「12球団ファンクラブ会員様無料招待デー」開催!

野球殿堂博物館では、今年もプロ野球12球団の各ファンクラブ会員様へのサービスとして、「招待デー」を開催しています。ユニホームなどの展示や日本シリーズ等の上映、マスコットの来館など、当日限定の様々なイベントを実施しています。



球団職員と当館学芸員による  
展示解説ツアーを実施

5月15日 ロッテデー



レオが来館しファンと記念撮影

5月18日 西武デー



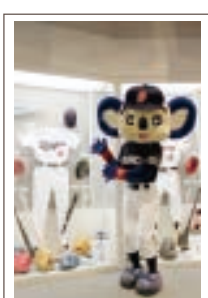
プーマー選手や野茂投手のユニホームを展示

5月25日 オリックスデー



ジャブットが来館し、巨人コーナーで阿部選手のポーズに

6月5日 巨人デー



ドアラが来館し、中日コーナーで記念撮影

6月22日 中日デー



大谷翔平投手の初先発第1球を当日より公開

6月25日 日本ハムデー



ハーキュリーとボンちゃんが王会長のレリーフ前で記念撮影

7月1日 ソフトバンクデー



クラッチとクラッチーナ、東北ゴールデンエンジェルスのみなさんが来館

7月9日 楽天デー

広島 (7/24)、ヤクルト (8/1)、阪神 (8/3)、DeNA (8/15) の各招待デーの様子は次号で紹介する予定です。

## 博物館からのお知らせ

### ▶ 理事会・評議員会

公益財団法人としての最初の理事会を5月23日(木)に、また最初の評議員会を6月10日(月)にそれぞれ午前11時より、東京ドームホテルにて開催いたしました。

新制度に則った運営方法で、会議は進められ下記の議題につきまして承認いただきました。

<理事会>

- 議題1. 平成24年度事業報告・決算報告・監査報告の承認について
- 議題2. 平成25年度事業計画・収支予算の承認について
- 議題3. 名称変更に伴う諸規程の改正について
- 議題4. 会議日程について

<評議員会>

- 議題1. 平成24年度事業報告・決算報告・監査報告の承認について
- 議題2. 役員等報酬規程の承認について

### ▶ 販売中!

#### ● 平成25年野球殿堂入り記念直筆サインボール

大野 豊氏・外木場 義郎氏

平成25年野球殿堂入りされました大野 豊氏・外木場 義郎氏それぞれの直筆サインボール。

公益財団法人 野球殿堂博物館 理事長の証明書が付属、ボールケース底、証明書にはシリアル番号が入ります。



大野 豊氏サインボール



外木場 義郎氏サインボール

【ボール】 NPB統一球 直筆サイン入り

【素 材】 ケース:ガラス/台座:木製

【カラー】 ケース:透明/台座:ブラウン

【付属品】 野球殿堂博物館証明書、野球殿堂 2012 (書籍)、野球殿堂博物館ご入館券6枚

【販売数】 50個

【サイズ】 ボールケース:縦14.5×横13×奥行13cm (奥行は台座含まず)

※なお、このボールはインターネットのみの販売になります。

<http://shop.npb.or.jp>からお申し込み下さい。

### ● 博物館のご案内

場 所 東京ドーム21ゲート右

開館時間 3月1日～9月30日 AM10時～PM6時 (入館は閉館の

10月1日～2月末日 AM10時～PM5時 (30分前まで)

入館料 大 人 500円 (300円) } ( )は  
小・中学生 200円 (150円) } 20名以上の団体  
65歳以上 300円

休館日 月曜日(祝日、プロ野球開催日、春・夏休み中の月曜日は開館)  
年末年始 (12月29日～1月1日)

### 《8月・9月・10月の休館日》

8月 無休

9月 2日・9日・30日 10月 7日・21日・28日

● 編集後記 7月20日に行われた大野 豊氏・外木場 義郎氏の野球殿堂入り表彰式のもようをお伝えしました。福嶋 一雄氏の表彰式は、8月15日に甲子園球場で行われますので、次号で式の様子をお伝えします。お楽しみに!!  
コラム 博覧/博楽は紙面の都合により、お休みします。

### 野球殿堂博物館 Newsletter 第23巻 第2号

2013年8月1日発行 (年4回発行)

編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館  
(旧・財団法人 野球体育博物館)

〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61  
Tel 03 (3811) 3600 Fax 03 (3811) 5369  
<http://www.baseball-museum.or.jp/>





## リレー随筆 (53)

### ファンが求める「異空間」

競技者表彰委員会委員 鈴木 遍理 (東京新聞)

韓国を旅行してきた男性の知人から「最近韓国のプロ野球が面白いんだ」という話を聞いた。野球にはあまり興味がないと思っていたから意外だったが、理由を聞くと納得がいった。その知人が見た試合ではチアガールがロック、ヒップホップ音楽に乗ってベンチの上で踊り、しかもインニングが進むにつれて全員の衣装が薄着になっていくのだという。そのたびに周囲の韓国人ファンと一緒に盛り上がったそうで「最初は1試合だけのつもりが、結局は3回も球場に行っちゃったよ」。真っ正面から日本のプロ野球や米大リーグを見てきたつもり身からすれば邪道そのものの観戦動機だが、「そんな野球観戦もあるのか」と軽いカルチャーショックを受けたのは事実だった。

そういえばNHKも、韓国でプロ野球がサッカーをしのぐ人気を持つようになった秘密を探る特集番組を放映していた。ファン層は若くて女性が多く、スタンド全体が大音響の音楽の中でロックコンサートのように熱狂していると解説していたように記憶している。実際、韓国野球委員会(KBO)によれば2002年に約239万人だった観客動員数は、9球団の昨年に史上初めて700万人を突破した。韓国の人口(約5000万人)を考えれば驚異的な伸びといえるだろう。その中心となっているのが40%以上を占める20歳代のファンで、女性も40%近い。この数字を見ると、若いカップルが球場デートを楽しむ姿が目立つというのもうなずける。

舞台は一転、アメリカに移る。私が大リーグの取材でボストンからクリーブランドに向かう飛行機に乗った時、レッドソックスのユニホームを着たファン約20人と乗り合わせた。レッドソックスのホームゲームのチケットは人気がありすぎて入手しにくいので、クリーブランドでのインディアンス戦を観戦するという。ファンなら珍しいことではないそうだ。飛行機が着陸態勢に入ると機内でレッドソックス・コールを大声で連発し、テンションは上がるばかりだった。

そんな彼らがインディアンスの本拠球場プログレッシブフィールドのスタンドの一角に陣取った時、とんでもないしっぺ返しが待っていた。球場のオーロラビジョンにレッドソックスのユニホームを着たファン一人一人がアップで映し出されて「×」マークが重ねられる。そのたびにスタンド全体は大ブーイング。一方、オーロラビジョンにインディアンスのユニホームを着たファンが映った時は「○」マークとなり、今度は大きな拍手に包まれるといった具合だ。これをインニングの合間にしつこく繰り返したのだが、非難されるレッドソックスファンも非難するインディアンスファンも本当に怒っている姿はなく、みんなで心の底から楽しんで笑っている。これもまた不思議な光景だった。

オーロラビジョンで思い出したが、大リーグの球場ではカップルが大きく映し出されるとスタンドから「キス、キス」の大コールが起こり、キスをうながすことがよくある。私の経験では100%のカップルが求めに応じてキスを披露する。同じイベント(?)は韓国でも行われているという。日本で同じことをやったらどのような反応があるのか。最近の若いカップルなら大観衆の前でも抵抗なくキスするのか、あれやこれやと考えてしまう。

大音響の音楽が鳴り響く中で踊り、叫ぶファン。その中心で薄着になっていくチアガール。敵地の球場で容赦なく罵倒され、それを楽しむファン。大観衆に注目される中でキスするカップル…。つまるところファンは、野球場が日常と懸け離れた「異空間」であることを求めている。日本ならではの「異空間」とは、それを形作るのは、私を含めてプロ野球に携わっている者の大きな使命だろう。